

スマートフォンに係わる サイバー犯罪被害防止

非常に便利なスマートフォンやタブレット端末。使用方法によってはいろいろなトラブルに巻き込まれる可能性があり、アプリの登録などで気付かないうちに個人情報が出し、悪用されている危険性もあります。

アプリを取得する際は公式マーケットなど信頼できるサイトから信頼できる提供元のものだけ利用する。ウイルス対策アプリを使用するなど、自分の情報を盗まれないように注意しましょう。

携帯電話を持つとき、持たせるときは、正しい使い方を身につけ、インターネットのリスクを知るなどスマートフォンなどと正しく付き合うように指導していきましょう。

青少年健全育成大会 の目的

青少年の健全育成はいつの時代においても大人にとって重要な営みです。しかし、人間関係の希薄化、善悪の判断能力や規範意識の低下、自己決定能力の未発達など「心の未熟さ」が起因と思われる青少年の行動が最近目につきます。この問題は子どもたちだけの問題ではなく、大人世代一人ひとりの問題と認識する必要があります。

そこで、家庭・学校・地域社会など関わりある全ての人が自らの問題として対応していく決意をし、全ての大人が積極的に青少年に関わることでできる社会を築いていけるよう、地域住民全体の心の絆を深めることを目的と

しています。「環境・健康
都市函南」を目指し、
町ぐるみで青少年の
健全育成に励んで
いきましょう。



司会をする高橋佑太朗さんと須藤凜花さん（ともに東中学校3年）

第65回 社会を明るくする 運動ポスター特選作品



町長賞

東中学校3年
みずの ゆいな
柳沼 唯奈さん



町議会議長賞

函南中学校3年
みずの ゆり
水野 有理さん



教育長賞

西小学校6年
もちづき ゆい
望月 唯依さん



社会福祉協議会長賞

函南小学校6年
とみた いお
富田 伊緒さん



三島地区保護司会長賞

東小学校6年
みやま いくみ
宮嶋 郁実さん



表彰を受ける柳沼さん、水野さん、望月さん、富田さん、宮嶋さん（左から）



函南中学校3年
みずの ゆり
水野 有理さん



東中学校3年
くろだ ちなつ
黒田 千夏さん



田方農業高校3年
とりやま はなか
鳥山 花郁さん

「今、考えるべきこと」

戦争は人の命を奪うだけでなく、差別も生まれました。先日、私は第二次大戦時に陸軍に所属していた筆者の体験をつづった本を読みました。筆者が戦争が終わり、家に戻ると誰も目も合わせず中には筆者をにらみつける人もいました。ある時、汽車に乗っていると「戦争犯罪人はおとなしく歩いて行け」とまで言われました。

なぜ彼がこんな目にあつたのでしょうか。私は人々が多くの犠牲を払ったのにも関わらず、戦争に負けたという事実を受け止めきれず、悔しさや苦しみ、の矛先を兵隊たちに向けたと考えました。それは、「八つ当たり」と言えるでしょう。

そんな「八つ当たり」を利用したものの一つにナチスドイツのユダヤ人迫害があると考えます。日本だけでなくさまざまな国で戦時中、そして、その後も差別は続けられました。

私は将来、戦争の悲惨さを伝える仕事に就きたいと考えています。私は戦争を実際に体験していませんが、戦争を体験した人の話を聞き、感じたことを伝えることはできます。戦争を体験した人が減っていく中で、私たちはその事実を風化させてはいけません。「世界平和」を実現するために、日本で起きたこと、そして、今も続いている争いがあることを忘れないでください。

「デジタル機器万能の社会について思うこと」

現在、多くの人がスマートフォンを持っています。スマートフォンは便利ですが、それが社会に悪影響を与えています。例えば、SNSを頻りに利用するため、人との会話が減り、コミュニケーション能力が低下するといったことが挙げられます。

ゲームやパソコンも同様です。都市部ではすでに隣人と関わる機会が少なく、あいさつさえしないことが当たり前となつていくそうです。何年後かには函南町でも今の都市部のように、人とのつながりが希薄になってしまわないか心配です。人とのつながりが希薄になると、相手の考えや気持ちが理解できなくなり、自己中心的な考えを持つ人が多くなり、このような人が増えると人とのつながりや信頼関係が崩れます。

どんなにコンピューター技術が進歩しようと、互いを思いやる気持ちがなければ心豊かな社会は成立しません。

デジタル機器万能の社会である現在、コンピューターの技術ばかりに頼るのではなく1人ひとりの存在が認められ、人との対話を通してそれぞれが自分の意見を伝えあうことができる社会にしていきたいと思えます。そして、個人が持つ能力や思考力を発揮できる社会になることを願っています。

「草花にできること、自分に出るここと」

植物は可能性が無限大にあり、人の心に影響を与えている。私がそれに気付いたのはある人がきつかけだ。その人は桜が好きで、春が来るとまた大好きな季節が来たと言っている。私はその時に、植物で季節を感じることが出来るということに気付いた。それから植物と向き合うと、挙げればきりが無いほど植物が七変化するということに気付いた。その根底には人の心を和らげる力がある。

私は植物の可能性を使って人を優しくする力をもくの人に与えたくなつた。そのために花の事をよく知ろうとした。心が折れてしまふときもあつたが、あの人のうれしそうな言葉に支えられた。他の人ではなく、私が誰かに幸せな気持ちにしてくれる植物の力を伝えたいのだ。伝えるだけでなく興味を持ってもらえるような工夫も見つけていきたい。いろいろな発見をしていながら、最後の一年で今まで蓄えてきた全てをつなぎ合わせ、植物によるリラクゼーションの可能性を生み出して広められるような人になる。また、地域団体などで植物の可能性を広めていく。植物の素晴らしさに気づき癒される人が増えていく。そして、植物の可能性が引き出されていく日が来るようにこれからも進んでいきたい。

※各発表者の文章は、主張の主な内容を要約して掲載しています。